

TOKO NO.156

2010.6.11

わらじの会・どの子ども地域の学校へ！公立高校へ！東部地区懇談会

連絡先・春日部市大場690-3 Tel 048(737)1489 Fax 048(736)7192

メール: waraji@muf.biglobe.ne.jp ホームページ: <http://members.at.infoseek.co.jp/TOKOnews/>

ブログ「共に学び・働くー障害というしがらみを編み直す」: <http://yellow-room.at.webry.info/>



## 野外おしゃべり会でスイトンおいしく



### 障害のある人もない人も地域で共に！

**TOKO NO.156** TOKO野外おしゃべり会から 2 越谷市教委との話し合い報告 6 夏直前イベント情報 7 「共に学ぶ埼玉交流集会・メニューがいっぱい?!でも 選ぶしくみを疑う 子どもたちは、いま」ご案内 8

TOKO が初めてお手元に届いた方へ

TOKO を初めて目にした方へ

子ども達を分け隔てなく育てるために

どの子ども一緒に地域の学校へ通えるように

地域へ、行政へ、働きかけている会です

ぜひ、一度のぞきにきて下さい

待っています

TOKOホットライン 白倉 048-752-7351

中山 090-2202-5271

山下 048-737-1489

いい天气で、ひなたは暑かったですが、バーベキュー広場は若葉越しの光と影がゆらめき、そよ風も通って、とてもさわやかでした。今回も地元の鈴木照和さんが食材調達から調理の段取りまで担ってくれました。素朴な味の、具のたっぷり入ったスイトンでした。写真でわかるように、思い思いのおしゃべりをまじえ、自己紹介や近況報告、悩みなどを出し合いました。参加者は60人をこえました。話題になったことを、いくつかご紹介します。(山下)

## いじめ体験をめぐって

上原さん(春日部)から、普通学級に通う娘さんが、KYと攻撃されることを前は気にしていなかったのに、最近気にし始めたので、親も悩んでいるという話が出て、各々のいじめ体験などが話されました。以下は、その一部を要約。

五十嵐さん(春日部)：低学年のころは息子さんの学校での様子を教えてくれる同級生がいたが、高学年になったらタブーのようになった。後になってから、食べ物をおごらされたなどと、本人の口から聞いて知った。

竹迫さん(草加)：上原さんの娘さんは、自分が周りとかみ合わないことに気付き始めたという成長の過程にあり、親子できつくなりながら乗り越えて、新たな関係ができてゆく契機では。

吉田さん(春日部)：養護学校時代をふりかえると、いじめられたことはあるが、どちらかという友達



で、これやってこいとか言われた程度、その子にべんきょう教えてこともあるし。自分の子供たちに関しては、いじめられたら仕返しして来いと言うつもり。

熊谷父さん(川口)：ケンカはするべき、子供の起こしたケンカは子どもが解決すべき。

富樫さん(越谷)：学校でずっといじめられ、石を投げたりもされたが、弟が助けてくれたし、だんだん強くなった。

野島さん(春日部)：、養護学校時代も、施設でもいじめられた。

安倍さん(新座)：体型的にデブだとかなんだとかいじめられたが、片手で男の子を突き飛ばしていたので、いじめたり、いじめられたりという感じ。

熊谷母さん(川口)：クラスメートから「今日、たける、2年生にいじめられてたんだよ。僕達が助けてあげたんだよ。」という話を聞いた。自分では都合悪いことは言わないけれど、お友達が全部教えてくれる。

## きょうだいについて

千崎さん(越谷)から、特別支援学校に通うお兄ちゃんにとっての地域とは、とりあえず地域の学校に通う弟が連れてくる友達との関係ではないかという話と、その弟が他の人に「うちのお兄ちゃんバカだから」と話していたのを聞いたということが出され、それぞれの家庭でのきょうだい関係について語られました。



藤ヶ谷さん(春日部)、上原さん(同)：普通学級の中でちょっと変わったことをやると、「バカ」とか「ガイジ」とかの言葉が飛び交っているので、あまり気にしなくていいんじゃないか。

熊谷兄さん(川口)：弟のことを友達に「頭の悪い障害です」と言っている。

## これからの悩みや期待

これからのことについて、悩みや期待などが、語り合われました。



五十嵐さん親子(春日部)：来春高校を卒業した後、進学か就職か悩んでいる。

上原さん(春日部)、熊谷さん(川口)：子供が来春小学校卒業で、不安もあるけれど地元の中学校でがんばってゆこうと考えている。

清水さん(越谷)：いま学区外の小学校の特別支援学級に行っている息子さんを毎日送り迎えしているが、卒業までの2年間で、短い

距離から少しずつ自立登校にチャレンジし、あとは学区の通学班に混ぜてもらったりできればいいと考えている。

岩崎さん(春日部)：一人で暮らしているが、この頃中性脂肪が高くなって医者通いをしており、早目に治したい。

白石さん(春日部)：グループホーム・テレサにいつまでいられるかが悩み。

青木さん(春日部)：精神の障害と骨粗しょう症があるが、世一緒でのポスティングや花植えなどの仕事があればいいなと思っている。

辻さん(越谷)：議員になってからあまり障害者の介助をしていなかったが、子どもが生まれて、これは24時間介助だなと実感した。

坂田智さん(春日部)：早く就職したい。

畔柳さん(春日部)：90歳のお母さんが大腿骨を折って入院中で、いよいよ本格的介護だなと思っているところへ、孫が生まれ、どちらも介護が問われるとともに、かわいいという感じもある。

中山さん(越谷)：「早くクルマに座って」と同乗者にせかされた時、「座ってじゃないの。『乗っての間違い』よ、「ごめんなさい(と言って!)」といつまでもその人に迫るような、こだわりの強いべしみの通所者と、先日ケンカをした。FAXの送信をめぐっての押し問答を30分続け、初めて頬をちょっと叩かれたのだが、母親にはゲンコで殴るのに、中山さんには手加減をした。その関係の取り方を実感して、もっとこうした場面を共有できるようにしたいと感じた。

竹迫さん(草加)：かつて「特殊教育」と言っていた時代の強引な就学指導からいまは「特別支援教育」に衣替えされ、「相談ですよ」、「選べますよ」と言いながら、その実さらに細かく分けられ、指導も強くなっているのが現実ではないか。普通学級や高校の中でも、「この時間は別にやりましょう」といった圧力が、選択肢という名で、加えられてくる中で、どうやって一緒にやってゆくかが悩み。

渡辺さん(越谷)：息子の宗山が特別支援学校の小3で、地域とのつながりが全くない中で、幼稚園の時から4年間、いろんな公園と一緒にいき、遊んでいる子ども達の中に手を引いて入れてあげてと言うことを積み重ねてきた結果、一緒に駄菓子屋へ行ったりする友達ができる。さらに子ども会への参加や公文など、なんとか地域の顔にと努力を重ねている。

白倉さん(春日部)：娘の清美が通い続けてきた近所のデイケア施設が、遠くに移転して生活介護事業所となり、元々の場は少人数でさをり織りをする施設に特化し作業能力の高い人だけを対象としたため、近所の人達の中で活動したい親子の願いが一方的に断たれてしまったこと。この間、親子共に悩み続けたけれど、今後を考えるいい時間ももらった。

斉藤父さん(さいたま市)：息子の晴彦が、昨年皆さんのおかげで大宮商業高校の定時制を卒業できた。障害をもっている身内がいるということは別にたいしたことではない。みんな仲良くやってればなんとかなるものだ。

新井さん(越谷)：世一緒の当番をしている。就職したい。



## 野外おしゃべり会ってなんだ

野外TOKOおしゃべり会について、山下から少し述べました。

誰でも自分の将来はわからないし、それを考えると不安になる。でも他人事なら落ち着いて聞けるし、少しは助言もできそう。だから他人の話聞くのは大切なこと。ピアカウンセラーとか、ピアヘルパーは、障害者だけのことでなく、誰でもできる。障害のあるなしにかかわらず、そういう他人同士の関係をつくってゆこう。

わらじの会でも施設や介助事業を運営している。しかし、できればそういう特別なものがなくても地域で共に生きられるようにしたい。制度におまかせにして、身近な人同士がつながりあえない現状を変えたい。世一緒は職員がいない。制度がない。制度がないこともいっぱいやらなければ、地域は変わらない。就学基準に従わずに普通学級で学ぶこともそうだし、清水さんの自立登校や渡辺さんの公園参加もそう。お互いに制度の枠をこえて街に出てゆくことで、初めていろんな人がいるんだなという認識が広がってゆく。

坂田さん(幸手):子供が小学校の頃から参加している。あたりまえに地域で一緒に大人になろう。

## 教え子登場

偶然にも、竹迫さんの教え子(春日部特別支援学校の今春の卒業生)が、通りかかって一言。「いま株式会社の仕事をしています。ダンボールを運んだりしています。お給料でなにか買ったりとか、楽しみを選んでます。卒業してから、先生のことを思い出してさびしいときもあります。学校の方が楽しかったなあとは1回だけ思いました。」

## みなさんありがとう

ここに収録した発言は、ごく一部です。誌面の都合で載せられなかったみなさんも含め、当日のご参加ありがとうございました。当日子ども達と一緒に動き回っていて、話し合いに参加できなかった県立大生のみなさんも、お世話になりました。

TOKOでは、このような野外おしゃべり会のほかにも、屋内でのおしゃべり会や相談会などを開催してゆきます。また、TOKO以外にも、わらじの会等の行事がたくさんありますので、ご参加下さい。

## 生活ホームでTOKOを

辻 彩子さん(越谷):子供を出産しまして、育休が明けて5月から職場復帰しました。

今生活ホーム職員として、また新たに働かせていただくことになりました。皆さん、生活ホームオエヴィスというのを知っていますか?そこの居間を使って、TOKOのおしゃべり会を月に1回やってもらうこととなりまして、4月の末に一度やって和気あいあいとお話できていたと思います。また、今月は5月19日にオエヴィスの居間でおしゃべり会をする予定になっています。今後月に1回やっていく予定なので、お時間ある方はふらりと立ち寄って、情報交換したり、息抜きしたりどうぞ。(上の写真右)





TOKOでは、例年通り、春日部、越谷両市教委に対して要望書を出し、話し合いを行いました。春日部市は1月18日と3月8日、越谷市は2月1日に、それぞれ行いました。今回は、越谷市教委の回答についてお伝えします。

参加者:白倉、山下、清水、太田、種房、佐藤、樋上、藤崎、松本、中山  
教委:細谷、斉藤

## 1. 就学時健診をふりわけの手段としないこと

(要望) 2003年以降、貴委員会は、「本来は障害のある子もない子も地域の通常の学級で共に育ち・共に学ぶことが大切である。現状ではそこで学ぶための理解や支援が整っているとは言い切れない状況もあるので、親子が望む場合には、特殊学級や盲・聾・養護学校も用意し、そこでの教育を選択できるようにしている。」とくりかえし確認して来られました。国レベルでも、学校教育法施行令5条の見直しが課題になっているいま、貴市段階でも可能な具体策を進めて下さい。まず就学時健診については、仙台市、千葉市、川崎市、横浜市、大阪市等にならって知能テストをとりやめること、また東大阪市のように受診義務はないことを広報して下さい。

(回答)書かれているとおり、振り分けの手段とはしない。学校に入ってから支援のため、保護者から相談に乗ってほしいという要望あり、就学相談時に情報を提供している。全市内の保育所、幼稚園にも情報提供。知能テストをやめることは考えていない。

## 2. 就学支援委員会に代わる相談支援委員会の設置

(要望)学校教育法施行令5条に基づく振りわけを前提とした就学支援委員会については、東松山市にならって廃止して下さい。そして、2003年に確認された「障害のある子どもと障害のない子どもが、分け隔てられることなくともに学び育つことができるように、多様な支援方法を検討して障害のある子どもの地域の通常学級での学校生活をサポートする施策を進め」、「地域の通常の学級で共に育ち・共に学ぶ上でのさまざまな壁や親子の不安・ためらいにこえ、支えてゆくための『相談(および支援)』活動」に重点を置くとともに、「やむをえず特殊学級、盲・聾・養護学校を選択した親子や就学先に関し専門家の判断を希望する親子に対して」もできる限り地域で分け隔てられず育ち合えるよう、情報提供と相談及び支援調整を担う新たな委員会を設けてください。

(回答)市では就学相談の考え方は、子供がよりよく成長できるようにと考えて行っている。今の委員会の狙いをき

ちんと校内の相談や教育相談に生かしていきたい。

国レベルでの動きについては市町村の段階では未検討。もう少し方向性が出てから。必ずしも種別だけでは判断していない。希望を聞くことは大事だが、情報を提供している。いくつかの選択肢を示して、もちろん大事なところは保護者の意見、就学支援委員会の内容はきちんと整理していく。

### 3．付き添いの是正

(要望) 2003年の「入学時も、入学後も、保護者に対して付き添いの強要は、行わないよう、校長に確認している。」という確認とは異なる事態がしばしば起きています。2003年に「登校について不安をお持ちの方が、自主的に付き添っている」、「あくまでも保護者の意思によるもの」、「保護者の側から『お手伝いしたい』ということをおかすことはある」と説明されましたが、実際は無言の強要というべき状況が多くあります。特に、校外学習などの際は、親の付き添いが当然視されています。子供達だけでやる活動もあるのに、大人がいて口出しすることは、教育的にも問題が多いと考えます。また、親が付き添えないからといって、校外学習に参加できないといった事態があってはならないと思います。貴委員会として、学校への支援をしっかりと行ってください。

(回答) 付き添いの強制は確認していない。現実、学習効果を上げるために保護者の協力は必要。総合学習のため、保護者に協力してもらっていることは事実だが、特別に障害児だけではない。情報があれば把握していきたい。できれば学校のことは学校でという原則でやりたい。距離などにもよる。学校応援ボランティア、社協ボランティアをお願いしている人もいます。保護者が窓口として交渉する。細かいことは把握していない。

### 4．特別支援教育支援員の位置及び研修・研究、勤務条件、

(要望) 貴市は、臨時教職員として雇用された教育免許または保育士免許を持っている人達を特別支援教育支援員として配置されています。また、この支援員のほかに補助教員ボランティアも現場に入っています。まず、それぞれの人数と配置の実態について、教えてください。また、障害のある子もない子も共に学ぶための支援員等については、本人および教職員全体に対し、毎年の実績を踏まえた継続的な研修が大切であり、このことが十分に行われないと、障害のある子は支援員が見ればいいという閉ざされた関係が生じかねません。現状はどうなっているのでしょうか。さらに、同じ臨時教職員でも、教諭・非常勤講師・事務職員などは、常勤の場合週5日、1日7時間45分であるのに対し、特別支援教育支援員は週20時間、1日5時間になっています。この事情について教えてください。また、支援員等がこの時間帯いなくなるからと、その間親に付き添ってほしいという事例があると聞きますが、実情はいかがでしょうか。

(回答) 10年前から動きがあり、越谷市の名称は補助員。平成9年から全市で2人。画工や保護者からの要望で少しずつ増えてきている。平成17年は十数人だが、今年は32名プラスアルファ。3学期は34人。時間は本来は全部だが、予算との関係があり、1日5時間。難しい部分もあるが、各学校からは人数を増やすことを優先。研修は十分な時間が取れないのも現状だが、年1回教育相談所で研修を行っている。各学期ごとに活動の報告を出してもらい、特別支援教育コーディネーターを通して、支援員の相談にも応じている。時間が増えることでの問題を検討している。

募集かける段階では 5 時間、週 4 日で同意して来てくれている。今後、今の話もしていきたい。一人一人が違うので、情報収集から始めて、弾力的にクラスの中に入っている。いかに離れていくかも大事なところだと思うので。

大人が介入することの難しさはある。先輩にも教えてもらい、胴接していくか、情報もらえればと思う。支援員については毎年必要なところに配置していく。全体の中で、継続が難しい状況。子供の理解や関係は時間がかかるが。雇用は、学校課で行っている。

## 5 . 居住地校からの呼びかけ

(要望) 2003年に、「盲・聾・養護学校に行っている児童・生徒も、本来は地域の通常学級で学ぶべき子どもとしてとらえる」こと、そして「盲・聾・養護学校の子どもが、その子の本来行くべき居住地の学校の通常学級に参加できるよう努力していく。」という趣旨の確認をいたしました。その後、県により支援籍制度が作られ、国の法改正により特別支援教育が進められましたが、いずれもこれまでの分ける教育の枠組みを引き継いでいるため、居住地交流は一部でしか進んでいません。分けられた教育の場にいる本人・保護者が「地域で育ちたい」と声を上げるのをただ待つだけでなく、地域の学校の側からも学区内在住の特別支援学校生徒達に対し、在宅訪問や学校訪問を行うなど、「うちに帰っておいで」という声を投げかける取組を行ってください。

(回答)平成 21 年度の支援籍、7 人が各学期に 1 回くらい居住地校で授業を受けた。成果もあり、来年度も実施していきたい。そのほかの交流も広く進めていきたい。学校公開という形や、運動会など学校行事、その他子ども会なども含めて交流の機会を持っていく。

## 6 . 公立高校を共に学ぶ場に

(要望)これまで養護学校という地域から分けられた教育の場を増やし、障害のある子供たちを囲い込んできたことにより、特殊学級・養護学校を合計した新卒者の就職は 25 年間で半減してしまいました。その反省を抜きに「就労 100%」を謳い「軽度の知的障害」とされた生徒たちを集め、高等養護学校を開設したことは、障害者雇用枠という椅子取りゲームに敗れて福祉の世界に滞留する障害者をさらに増やすだけです。ほんとうに共に生きる地域社会を求めるのなら、職場参加や自立生活への道の前に立ちだかっている高校という場を共に育ち・共に学ぶところに変えてゆく必要があります。県民の税金で運営されている県立高校に、さまざまな障害のある生徒が入ってゆけるよう、中学の進路指導のノーマライゼーションを進めるとともに、県に対し高校統廃合計画の見直しや受け入れ校への人的支援などを要請してください。

(回答)高等養護学校等の評価については、市としては言えない。現実には、さくら、ふじはこれから就職していく。分校も。成果などこれから出てくると思う。情報収集しながら、たくさんの選択肢を示していきたい。高校の入試選抜要領などの詳細を、高校進学を希望する障害のある生徒に伝えることについては、中学と高校が直接行っているため、全部を把握していない。



## ネットワーク合宿

6月19日(土)～20日(日)

国立女性教育会館 (嵐山町)

フル参加で5000円(宿泊費・食費・交流会費含む)

19日

13:00～わたしのくらし みんなのくらし 支援ってなんだろう?(各団体より)

19:00～国のあり方と地域の暮らし  
(細川律夫衆議院議員秘書・石原さんと)

21:00～大交流会

20日

10:00～お楽しみ企画

13:00～総合県交渉に向けて(15:00 終了)

問合せ: 埼玉障害者市民ネットワーク

090-4938-8689(大坂)



## 日本ボランティア学会2010 白金原っぱ大会

6月26日(土) 13:30～18:00  
分科会1

明治学院大学 2号館 2302教室

障害を編み直し、地に根を張る

ー共生・共棲するムラの論理へー

山下浩志さん(わらじの会)とわらじの会の人々

猪瀬良一さん(見沼たんぼ福祉農園代表)

山口力男さん(阿蘇百姓村/百姓)

コーディネーター 猪瀬浩平さん(見沼・風の学校/明治学院大学)

6月27日(日) 13:30～16:00

全体会

明治学院大学パレットゾーン 白金

アートホール「原っぱを生ま出す:

東京の周縁で希望を紡ぐ」

基調講演 岡本栄一さん(大阪ボランティア協会会長)

指定討論者(予定)

吉田弘一さん(わらじの会)+わらじの会の人々

宇鉄昭子さん(NPO法人自立生活サポートセ

ンター・もやい)+もやいの人々 ほか

コーディネーター 竹尾茂樹さん(明治学院大  
学国際平和研究所所長)



## 探ろう! 施設の明日

## 地域・職場の支援拠点へ



8月の予定  
もチェック!

7月4日(日)

越谷市中央市民会館4階13～15会議室

定期総会

13:00～

越谷市障害者地域適応支援事業10周年記念

シンポジウム 14:10～

居場所と仲間はあるけど社会は遠い...就職したのに暮らしは狭い...なんだかこの街生きづらい!?

福祉・保健・医療と労働 谷間こえてつながるには?

シンポジスト:

土屋 幸仁さん(NPO法人八王子ワークセンター代表)

田中 直樹さん(越谷市手をつなぐ育成会千草園施設長)

大谷 英樹さん(社会福祉法人平徳会こしがや希望の里職員)

清水 賢吉さん(2009年度地域適応支援事業参加者)

吉田 弘一さんほか越谷市障害者就労支援センター職員

コメンテーター:

小川 誠司さん(埼玉県福祉部障害者自立支援課主幹)ほか  
コーディネーター:

朝日雅也さん(埼玉県立大学保健医療福祉学部教授)

参加費:600円(会員500円)

手話通訳(依頼済)

## 障害者の職場参加をすすめる会 定期総会&記念シンポジウム

7月25日(日)

グループホーム・テレサ勉強会

13:30～ ゆっく武里

26日(月)

八王子ワークセンターへ見学・交流

問合せ:世一緒 048-964-1819

31日(土)

越谷花火大会(世一緒で夜店)

問合せ:世一緒 048-964-1819

8月24日(火)

地域で共に決起集会・ちんどんパレード

13:30 さいたま市民会館浦和

問合せ:埼玉障害者市民ネットワーク  
090-4938 8689(大坂)

8月27日(金)～29日(日)

わらじの会・夏の交流合宿

問合せ:パタパタ 048-733-2743

9月1日(木), 2日(金)

地域で共に! 総合県交渉

問合せ:埼玉障害者市民ネットワーク

090-4938 8689(大坂)



あたりまえに地域で 一緒に大人になる  
共に学ぶ埼玉交流集会



メニューがいっぱい！？ でも.....

「選ぶ」しくみを疑う

— 子どもたちは、いま

てい談

北村小夜さん 門平公夫さん 吉田昌弘さん

大田・特殊教育を考える会代表、  
「一緒にいいならなぜ分けた」(現  
代書館)など著書多数

元児童相談所ケースワーカー  
ブックレット「子どもたちは、いま」著者

春日部市障害者生活支援  
センター「えん」



by Tetsu

7月11日(日)

13:30 ~ 16:00

@岩槻駅東口コ  
ミュニティセンター

048-758-6500

(東武野田線岩槻駅下車徒歩0分)

参加費 500 円

主催:どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会(代表・斉藤尚子)048-676-5008 / 社団法人埼玉障害者自立生活協会(理事長・坂本さとし)080-6608-1275 / 埼玉障害者市民ネットワーク(代表・野島久美子)090-4938-8689 大坂  
問合せ・申込み:048-737-1489(黄色い部屋) 048-942-7543(竹迫)